

会 議 名	放課後児童育成事業（放課GO→おだいば）第3回事業者選考委員会
開 催 日 時	平成28年10月24日（月）13時30分～15時30分
開 催 場 所	港区役所 教育委員会室
委 員	田中委員、請川委員、福永委員、新庄委員、益口委員
事 務 局	横尾生涯学習推進課長、竹藤係長、森川主事
傍 聴 者	なし
会 議 次 第	別紙次第のとおり
配 付 資 料	<p>[当日配付]</p> <p>NO.1 港区放課後児童育成事業（放課GO→おだいば）業務委託事業者選定委員会 第二次審査スケジュール</p> <p>NO.2 港区放課後児童育成事業（放課GO→おだいば）業務委託事業者候補者審査基準・集計表（二次審査）</p> <p>NO.3 港区放課後児童育成事業（放課GO→おだいば）運営事業者候補者選考二次審査用ヒアリングシート</p> <p>参考 審査結果表（放課GO→おだいば）</p> <p>台場学園港陽小学校学校案内</p>

【会議の結果及び主要な発言】

■プレゼンテーション及びヒアリング

（1）A事業者（説明：13時40分～、説明者：3名）

ウ委員：指導員の人数について、資料では赤い部分に1人とそれ以外に4人あるが、この4人は確定の数か。また、サポーターはどのように集めるのか。そして、異学年との交流で、高学年の参加を促す工夫は考えているか。

事業者：指導員の人数は、基本的には統括リーダーが複数の施設を回りながらついているのと、施設長であるリーダーに加え、8時間勤務のサブリーダーがいます。その下に4人の指導員がいる状態ですが、イベントや地域関連のもの等で人手が必要な場合、港区内から指導員を応援として派遣しています。

サポーターについては、地域の方々やPTAの方々にお声掛けし、実際に放課GO→の様子を見ていただいてから登録していただいています。また、サポーター募集のチラシもありますので、新年度の最初に必ずお配りしています。

高学年の参加に関して工夫していることは、「子ども会議」というものを定期的に行っており、そこで子どもが楽しいと感じるイベントや好きな遊びをアンケート形式で集計しています。それをもとに月々のプログラムを組み、おたよりや掲示板で周知するほか、学校の休み時間に子どもたちに声を掛けイベントの内容を紹介しています。

イ委員：資料の人件費の部分について、常勤の給与とは、どこまでの常勤が入っている

のか。

事業者：リーダーとサブリーダーの予算になります。こちらは福利厚生費や交通費も含んだものです。

イ委員：「台場」という地域では、危機管理として特にどのようなところに重点を置かなければならないか。

事業者：台場の住宅は高層マンションのみで、遊ぶ場所等も限られてくるので、比較的に見守りはしやすいと思いますが、そういった特性を理解し危険性がないかを確認し、子どもたちが日頃から遊んでいる場所を積極的に見回り、安全確保の具体案を指導員同士で話し合っています。

ア委員：日々子どもたちの関わりで起きたことなど、定期的な情報共有を学校の先生方とどのような形で行うのか、施設長候補者にお聞きしたい。

事業者：長期休暇明けのタイミングは子どもたちに特に変化がみられる時期なので、このタイミングで先生方の目が行き届かない夏休みや冬休みの期間の放課GO→での様子をお伝えする機会を設けていただきたいと思います。また、学年の移り変わり際も、クラス替えで子どもたちの心情も変わってきますので、新しい担任の先生にも少しでも放課GO→の様子をお伝えしていきたいと考えています。

ア委員：施設候補者さんの経験の中で、大きな児童の問題等で学校の先生方と情報共有をしなければならないことはあったか。

事業者：はい、ありました。一番はやはり子どもが怪我をしてしまったときです。放課GO→でトラブルが起きてしまった翌日は、学校生活にも影響しその子の友人関係やちょっとした心情の違いもあるかと思いますので、その際は放課GO→へもお話しくださるようお願いしてきました。

エ委員：学校との連携は大事だが、それ以外に地域との連携で重点を置いていることと、保護者との連携で配慮していることをお聞きしたい。また、児童館との連携とは、具体的にどのようなものか。

事業者：地域との連携については、日頃からお祭りや行事などには積極的に参加し、常にコミュニケーションを取れるようにしていきます。

保護者との連携については、おたよりや掲示板で情報を発信するとともに、迎えの際に児童の様子を話したり、成長したと感じられる児童の参加カードにそれを記入したりします。また、お電話でご報告をすることもあります。以前、保護者から子どもたちの様子もおたよりに載せてほしいというご提案がありましたので、おたよりに子どもたちのリアルな声や様子を載せています。

児童館との連携は、放課GO→に参加したあとに児童館を利用する子どもの情報を電話等で連絡し合っています。また、児童館のイベント等にも参加し放課GO→と児童館のスタッフ同士の面識を高めています。

オ委員：個人情報事故で紛失してしまった際どうするか、施設長候補者が時系列で説明してほしい。また、他の地域と違う台場の特色を生かして考えていることがあれば教えてほしい。

事業者：個人情報の取扱いについてですが、発生時の状況把握を周りの指導員とともに

いち早く行います。そして、統括リーダーに連絡し、統括リーダーの指示を仰ぎながらフォローにもまわります。また、個人情報かどのような経緯で紛失してしまったかを突き詰め、今後の対策を話し合います。紛失してしまった個人情報の持ち主に対しては、本社とともに対応していきます。

台場ならではの工夫については、学校の前の海や公園内の森でのイベントを多数考えています。

(2) B事業者 (説明：14時10分～、説明者：3名)

ウ委員：1点目が、実際に子どもたちに指導をする常勤、非常勤の数を教えてほしい。

また、欠員が出た場合はどのように補充するのか。2点目は、具体的にどのような行事を考えているか、どのくらいやるのか教えてほしい。3点目は、お台場という地域性を踏まえた安全性をどのように考えていくかを教えてほしい。

事業者：常勤、非常勤の数ですが、常勤は3名、非常勤は4名で提案させていただいております。欠員補充については、近隣の施設から常勤を派遣していますので、常に7名体制です。

イベントについては、月に2回以上で季節のものと工作は必ず取り入れます。また、集団遊びやドッジボール等の運動や、お祭りに向けた準備も毎月取り入れます。子どもたちの旬の遊びややりたい遊びも取り入れていきます。保護者会では、保護者ご意見もアンケート形式で集計します。

安全性については、海の近くなので、水害を大いに想定しなければならないと考えています。ハザードマップを見ながら港区と相談し毎月のように避難訓練を行いたいと考えています。また、地震や不審者についても気を付けなければならないので、毎月避難訓練をします。備蓄の用意もしております。

イ委員：地域や大学と連携していきたいということだが、具体的にこの台場という地域でどのように地域の方や大学に声を掛けていくか。

事業者：児童館がありますので、児童館長や港区にどのような地域の方と連携すると良いかを相談します。また、弊社の既存施設に来る大学生に声を掛けたり、協議会で相談したりしていきたいと考えております。

イ委員：自然災害以外で台場地区特有の気を付けなければならない点について想定はしているか。一般論ではなく、台場地区という特色を踏まえて。

事業者：不審者対応は重点的に考えなければならないことだと思います。まず、警察の方に来ていただいて、不審者が侵入してきたときに子どもたちはどのように対応したら良いかを相談します。それから具体的な対応を決め訓練をしたり、子どもたちに呼びかけたりします。

ア委員：欠員は近隣の施設で補充するということだったが、その近隣の施設も人数が少なくなってしまう可能性も考えられる。その場合は、本部でシステム化していたり、マニュアル等を用意していたりするのか。

事業者：欠員が出た場合は、人数の多い施設から応援に行くようにしています。

ア委員：それは当日欠員が出てでも対応できるということか。

事業者：はい、そうです。

ア委員：募集の段階で提出された提案書には、施設長候補者は未定ということで記載されているが、本日ここに来た方は施設長候補者として確定か。

事業者：はい。

ア委員：学校との連携では、危機管理の情報共有以外でコミュニケーションを取るというようなことは考えているか、頻度も含め施設長候補者が答えてほしい。

事業者：今までの経験では、毎月決まった日にお会いする約束はありませんでした。ただ、校庭等で副校長先生や担任の先生とお会いすることがありましたので、その際は必ず声を掛けて子どもたちの様子を伝え、学校での様子も聞くという努力はしてきました。学校へお伝えする必要があることについては、こちらからお電話しお時間をいただいております。

ア委員：指導員間で問題が起きた際や指導員が悩んだ際は、どのように聞き出したり相談に乗ったりしているか。

事業者：とにかく話をすることで解決できるように努力しています。指導員全員が同じ方向を向けるように、会議等でこまめに話をするようにしています。

ア委員：そのやり方で今まで効果は上げてきたか。

事業者：例えば、全体のミーティングであったり、非常勤のみのミーティングであったりと、2、3日は設けていましたので、そこで効果は得られていました。会社としてのバックアップ体制もあり、人事評価面談では大きな問題を解決するほか、施設長で解決できない場合はエリアマネージャーも相談に乗っています。

ア委員：経費で巡回指導料があるが、これはどういうものか。

事業者：エリアマネージャーの予算です。各施設長はエリアマネージャーと相談して運営しますので、その各施設の巡回にかかる経費です。

エ委員：施設長が日常的に学校に報告・連絡をするということだったが、それはどのような内容か。その方法は口頭か。何か決まった形式はあるのか。

事業者：特に決まった形式はありませんが、何かあった際は報告するようにしています。

エ委員：日常的にとは、どのような内容か。

事業者：校長先生や副校長先生、事務の方に施設のことについて報告します。

エ委員：特に子どもの状況は報告しないのか。

事業者：それも含めてです。対応が難しい子どもについてはメモを渡したり、連絡会で報告したりします。

エ委員：英語が堪能な人を配置するということだが、常勤3名の中に含まれているか。

事業者：はい、そうです。

エ委員：その他の人は本部に常駐するということだが、英語以外の場合、本部に常駐している人はどのように対応するのか。

事業者：本部に連絡があれば直接現場へ向かうこともあります。また、電話で指導をする方法をとります。

エ委員：放課GO→の役割を一言で。

事業者：学校と行政と協力して、子どもの生きる力を育て、地域と一緒に育てていくことだと思います。

オ委員：障害児対応はどのように考えているか。施設長候補者は、施設長、リーダー、サブリーダーの経験をどのくらい積んできたか。

事業者：障害児対応については、程度にもよりますが、行政や学校と相談しどのくらいのレベルかを見極め、マンツーマンで配置するか何人かに一人という対応なのかを考えていきたいと思っていますが、障害児がいる場合は、対応する指導員を必ず配置します。

経験については、中野区で一年間学童リーダーをしていました。

オ委員：そこで学んだこととこれから生かしていきたいことは何か。

事業者：1年生が21人でそのうち18人が男子という時期がありました。その中で質の良い集団を作り上げていくという大変な1年間でしたが、メリハリのある学童を作るにはどうしたら良いかという工夫を考え、紙芝居を行いました。その時には普段活発に遊んでいる子どもでも静かに聞きに来て、年度末には静かにするという雰囲気に慣れてきてメリハリを付けられるようになりました。

(3) 最終審査

事務局より集計表を配布後、協議。

ウ委員：一次審査からであったが、A事業者の方が具体性があった。特に危機管理に関しては台場の地域を理解した提案ができており、子どもを中心に考えているという事業者の思いが伝わってきた。また、子ども会議を開催し、その中で出た意見をどのように活動につなげていくかということがよくわかった。今後は、オリンピックも間近であるため安全性をしっかりと確保してほしいのと、地元で盛り上げるというところでどう協力できるか具体的に提案してほしい。

B事業者は、施設長候補者は今までのことは発言していたがこれからどうするかという発言がなかった。これから考えていくということもあると思うが、今の時点ではまだまだ具体性に欠ける。また、学童と放課GOのの違いもしっかり勉強し認識してもらいたい。提案書の書き方では、「放課GO→おだいば」についてもっと記載した方が良い。事業としてのPRではなく、その地域に特化した内容を具体的に書くと、プレゼンの仕方ももっと良くなると思う。

イ委員：A事業者は、現場の指導員に対して常勤の給与が低いと感じたが、リーダーとサブリーダーの2人分ということが確認できた。また、書類上でもそうだったが、危機管理のイメージが具体的でわかりやすかった。施設長候補者も自身の言葉で発言していたので良かった。台場は観光客も多く、今後5年間はオリンピック関係で外国人も増えていくことが予想されるため、安全性についてしっかり意識してほしい。

B事業者は、常勤3名、非常勤4名というのが充実していて良いと思った。その一方で、本部が主に発言しており、施設長候補者はよくわかっていないようなイメージだった。

より具体的なイメージを持って受託した方が良いので、B事業者の評価が低く

なっている。

エ委員：台場は外国籍の子が多いため、B事業者の外国籍の視点での提案は良かった。その一方で、外国語や障害児の対応を一応提示しているが、何ら具体性がなく、どのようにするか質問をしても具体性が見えてこなかった。日常的に学校長や副校長に報告するということでも、何をするのかよくわからなかった。実現性もあるのかという疑問があった。最後に、放課GO→の役割を質問したが、子どもを育てていくという積極性が見えてこなかった。

A事業者は、子ども主体で活動し、育てていくという姿勢がよく見えた。

オ委員：本社についてはどちらも差はなかったが、B事業者は研修制度やマニュアルがしっかりしていた。施設長候補者を比較すると、A事業者は経験があると感じた。例えば、長期休暇中の子どもの様子を学校に伝えるというのは経験があつてのことだと思う。受け答えも真摯にそつなくできていた。1点だけ気になるのは、個人情報紛失の危機管理についての質問の答えが頼りなかった。その場ですぐに出てこなかったのかもしれないが、危機管理だけは必ず頭に入れておいてほしい。

B事業者の施設長候補者は、経験不足からか自覚があまりないように感じた。話し方も論理的ではなく、施設長としてシステムの確立化に努める等の自覚が見られない。

ア委員：B事業者の提案書では、障害児への対応についてかなりの割合で記載があったため、評価できた。施設長候補者の比較では、B事業者は質問しなければ発言しなかったであろうと思われる。経験不足で自覚を持った発言がなかったように感じた。今までのことは具体的に話していても、今後のことになると弱い。A事業者は自身の言葉で発言しており、とっさの質問にも具体的に答えていた。マニュアルが頭に入っていないと具体的に話すことができないので、施設長としての自覚があると感じた。

委員長：各委員の意見も踏まえ、A事業者に決定しても良いか。

一同：(賛同)

事務局：では、今回出た要望、条件を伝えA事業者で決定ということで、よろしいでしょうか。事業者は、株式会社パソナフォスターです。

■その他